

北日本ネットワーク

北海道・東北

JAPAN METAL BULLETIN
Local Network

杉本金属工業

切断・穴明け複合機導入

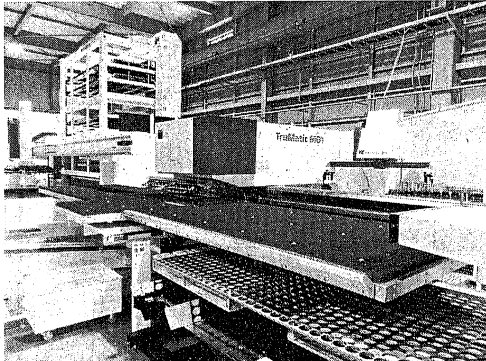
石狩第2 薄物鋼板加工可能に

【石狩】金属製品加工の杉本金属工業（本社・札幌市清田区、杉本寿光社長）は、石狩第2工場にファイバーレーザーとパンチングの複合加工機新鋭機を導入、このほど本格稼働を始めた。石狩第2工場には鋼板のファイバーレーザー加工機を1年前に導入していた

が、新鋭機は薄物鋼板の加工が可能になる。石狩第2工場は大口ト製品対応の工場で、既存の石狩第1工場は溶接を専門に手がけている。来年2月からは石狩第1工場に塗装設備も導入する。

新たに導入したのは、独トルンプ社の「Trumatic 6000 fiber」。板厚0.6-6.0ミリの薄物加工が可能になった。昨年第2工場に導入した独トルンプ社のファイバーレーザー加工機とプレスブレイキは板厚が6.0-12.0ミリの厚物加工機で、新鋭機は薄物対応になる。既存のタレットパンチプレス機が老朽化した

ファイバーレーザーとパンチングの複合加工新鋭機



こともあって、ファイバーレーザーとパンチングの複合加工機を導入

毎に900カ所の穴明けができる。加工した鋼板の用途は農業機

入した。新鋭機のファイバーレーザーの出力は3キロワット。最高で毎分3万ミリの速度で切断ができる上、今までできなかった成型加工も可能になった。パンチングは最大で1分

械、車両部品、除雪車部品、建築資材など多岐にわたるため、北海道新幹線や札幌市中部の再開発などの需要も狙える。

杉本金属工業の本社工場（札幌市清田区）

は多品種小ロットに対応し、石狩工場は大口トト対応専用の特化し、ハイスピード加工の機械を石狩工場に集約している。石狩第1工場は溶接専用だったが、来年からは粉体塗装にも進出する。石狩第2工場は鋼板系の大口トト対応の工場とし

ていく。杉本金属工業の2015年4月期の売上高は8億円だったが、16年4月期は前期以上の

業績を目指している。売上高比率は本社工場が60%、石狩第1・第2工場が40%だが、今後は石狩第1・第2工

場の売上高を50%以上に引き上げていく計画だ。